

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

鈴木志津枝（委員長、神戸市看護大学）

グレッグ美鈴（神戸市看護大学）

牧本清子（大阪大学）

丸 光恵（甲南女子大学）

2) 協力者

高山良子（神戸市看護大学）

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際的組織と連携をとりながら、国内の看護高等教育の推進及び日本国内の看護系大学のグローバル化を支援することである。

3. 活動経過

1) The East Asia Forum of Nursing Scholar (EAFONS) Executive Committee Meeting への参加

EAFONS の Executive Committee Meeting を開催するにあたり、議長であるシンガポールの Professor Karis Cheng と連絡を取り、議題や日時等の調整を行い、3月14日（月）12時30分～14時30分に開催することになった。

Executive Committee Meeting 当日、7か国から Executive Committee メンバー10名が参加し、日本から JANPU 代表理事の高田早苗氏、JANPU 国際交流推進委員会委員長の鈴木志津枝の2名と議事録作成者として国際交流推進委員のグレッグ美鈴氏が出席した。Executive Committee Meeting は Professor Karis Cheng の議事で進められ、主な議題・報告内容は次の通りである。①EAFONS 新議長は、次に Hong Kong Polytechnic University から選出される Executive committee member が就任することが決まった（後日、Lorna Suen 准教授に決定した）。②EAFONS の規約を正式に決定するための会議を5月下旬に香港で実施する。③EAFONS に加盟する条件は、博士課程を設立している、あるいは設立予定であることと、EAFONS を開催できることであることが再確認された。④INDEN (International Network for Doctoral Education in Nursing) との連携については、共同学会を開催するのではなく、お互いの学会で2時間程度の共同セッションを開催する方向で考える。他機関との連携は重要であるが、EAFONS はアジアのために実施することが再確認された。⑤次回の第20回 EAFONS は、香港で2017年3月9日、10日に開催される。テーマは、Globalization and Research in Doctoral Nursing Education である。会場 (Regal Riverside Hotel) は最大で600名の収容が可能である。⑥基調講演に同じ人が何度も招待されているため、招待した人のリ

各国の Executive Committee Members



ストを作成すること、プログラムが出来次第、回覧して意見を募ることになった。

2) 第19回 EAFONS 開催大学との連携活動

(1) 第19回 EAFONS 開催の準備協力

第19回EAFONSの開催大学である千葉大学の開催委員会とメールで連絡を取りながら活動を行ってきた。国際交流推進委員会の主な役割は、宮崎美砂子開催大学代表や諏訪さゆり事務局長、正木治恵抄録編集部会長や手島恵プログラム部会長との連携のもと、看護系大学からの査読者の募集や海外参加予定者（講演発表予定者）からの座長の選定と依頼、Executive Committee メンバーよりプレナリーセッションの発表者や座長を選定し依頼を行った。

(2) 第19回EAFONS開催時の協力

第19回EAFONSは12か国から1002名の参加者を得て開催された。開催委員会代表の宮崎美砂子氏のリーダーシップのもと、国際交流推進委員会の3名の委員も役割を担い、プログラム運営に協力した。国際交流推進委員の役割として、委員長の鈴木志津枝はプレナリーセッションの座長の役割を担い、グレッグ美鈴委員はEAFONSの実行委員として各国のExecutive Committee メンバーとの連絡担当や大学院生交流会のファシリテーターの役割を担った。また牧本清子委員は、Special Lecture (教育講演)の座長の役割を担った。

(3) Executive Committee メンバーの病院見学

前回のEAFONSにおいて、Executive Committee メンバーを対象に施設見学等の企画が実施されていたので、千葉大学の先生方に依頼し、第19回EAFONSにおいて千葉大学医学部附属病院の見学を企画していただいた。シンガポールと台湾、韓国のExecutive Committee メンバーが病院見学に参加され、ベッドを洗浄するセンターの見学では「こんな場所を見たことがない」と大騒ぎになるほど喜んでおられた。

4. 今後の課題

今年度の国際交流推進委員会は、第19回EAFONSの開催大学と連携を取りながら活動を行ってきた。しかし、国際交流推進委員会の趣旨である国内の看護高等教育の推進及び日本国内の看護系大学のグローバル化を支援する方策を検討するという課題に関しては、ほとんど検討できていない。次年度以降は国際交流推進委員会のメンバーを増加し、国際交流推進委員会の活動を拡大していく必要がある。

5. 資料

Executive Committee Membersの写真 (前ページ)